

### 一般向け講演会&グループワーク

## 「逆転の発想を導く多面的な考え方について学ぶ ～衰退の続く地方都市で活躍する事業者をケーススタディとして～」

青年技術士交流委員会では、毎年、年に1回程度外部講師を招いた講演会を実施しています。今年度は、北海道を代表するコンビニエンスストアである株式会社セコマ（以降、「セコマ」とします。）執行役員広報部長の佐々木 威知 様を講師にお招きして、「逆転の発想」や「多面的な物事の考え方」を学ぶための講演会を開催しました。

本イベント開催の背景として、多様化が進む社会情勢に対し、技術士としての専門分野を活かしつつ、変化の機会をいかに柔軟に取り込んでいくことができるかを考えるきっかけを作りたいという狙いがあります。

北海道民なら知らない人はいないであろうセコマは、道内のほぼすべての市町村に店舗を構えています。中には少子高齢化が進み、商業的に魅力的とは考えにくい地方都市もありますが、そのような地域に対しても積極的な出店を続けており、今では北海道の重要な食のインフラとして、まちづくりの側面も有する企業です。

今回は、そんなセコマのこれまでの取組経緯や考え方等を講演いただき、既成概念に捉われない多面的な物事の見方や、柔軟な発想を導き出すためのヒントを得ることを目的としました。

### 1. 開催概要

- ◆開催日時：2022年7月6日(水) 18:30～20:00
- ◆開催方法：オンライン形式(ZOOM ミーティング)
- ◆対象者：青年技術士交流委員会幹事、建設コンサルタツ協会等所属の若手技術者
- ◆参加者：会員/準会員：15名、会友：2名  
一般/非会員：6名、合計：23名

### 2. イベント内容

#### (1) 講演会

セコマは道内市町村の99.8%に店舗を構えており、北海道に根ざしたコンビニです。北海道に親しまれる企業となった要因として、道産食材の取り扱いや地域ニーズに応えた店舗の出店などが考えられます。これらを実現できるセコマの特徴は、主要な原料の生産、製造工場、物流拠点、店舗等を北海道に持ち、自社で管理している点にあります。このため、高品質な商品の提供を独自の流通網で輸送することで、低コストに抑えることができます。

セコマが店舗を構えていない道内市町村のうち、初山別村は人口減少が著しく、スーパーの撤退により、コンビニ等もない無店舗地域となっていました。そこで、セコマは村の要望に応え、試行錯誤の末2014年に出店を実現しました。その際、セコマ独自の物流網の活用や自社製造商品の取り扱い等によりコストを抑え、出店の条件を満たすことが可能となりました。

さらに、初山別村の特産品であるハスカップの規格外品を原料としたアイスを開発し、地域の魅力創出、地場産業の活性化に向けた取り組みも行っています。この取り組みの背景には、「三方よし」という、生産者、消費者、セコマそれぞれにメリットがあり、さらに長期的な視点で商品を育てていくことが必要だという考え方があります。

セコマはこのような経験を活かし、衰退が進む地域の要望に応えた出店を重ね、地域との連携により、地域と存続し続ける事業者として、独自の地位を確立しています。

(2)グループワーク

佐々木様の講演から得られた地域が抱えるデメリットをメリットや強みに変える逆転の発想・多面的な見方を踏まえ、グループワークのテーマは、技術士の専門分野を活かした地方活性化の取り組みを検討することとしました。グループワークは、建設部門の土質及び基礎、河川砂防及び海岸・海洋、都市及び地方計画等の技術士が分散するよう、5人ずつの2グループに分けて行いました。

セッションでは、与条件とした仮想地域の特徴に基づいた社会的問題を想定し、それらを解消するための地域活性化に向けた取り組みを検討しました。

グループごとの検討内容を以下に整理します。

仮想地域の特徴 (与条件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口1,700人</li> <li>・高齢化率41%</li> <li>・小中学校が各1校</li> <li>・介護施設0件</li> <li>・特産物「ウニ」</li> <li>・そば畑面積日本一</li> <li>・日本最大の人造湖「しゅまり湖」</li> <li>・ダムを活用した発電</li> <li>・日本最寒記録「-41.2℃」</li> </ul>
------------------	---

グループ1

社会的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護施設がないため、要介護者は町外へ移住する可能性</li> <li>・人手不足による産業の衰退</li> </ul>
地域活性化の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さなまちだからこそできる、次世代まちづくりのモデルケースを実践</li> <li>・産業や介護現場に次世代ロボットを導入したサステナブルなまちづくり</li> <li>・地域資源を活かした観光ツアーやワークショップ、居住環境の形成</li> </ul>

グループ2

社会的課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い人材の不足</li> <li>・地元で暮らしたいと思っても、雇用機会がなければ地域外へ移住してしまう</li> </ul>
地域活性化の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代が地元で暮らしながら、楽しく働くことができる環境の形成</li> <li>・ダムや炭鉱跡地の地域資源を活用し、年間を通じて働くことができる観光資源、雇用機会の創出</li> <li>・ダムでは、夏期に水位を一定に保ち、SUPやカヌーを提供</li> <li>・観光後地域に滞在してもらうための飲食店や宿泊施設の確保</li> <li>・ダムの堤体内で貯蔵したワインを飲食店で提供</li> <li>・エネルギーの自給自足により防災都市を形成</li> <li>・ダムを活用し100%クリーンエネルギー化を実施</li> </ul>

このように、仮想地域に対する検討だからこそ、常識にとらわれず、他分野の技術士による多面的な視点で議論することができました。

3. まとめ

今回の外部講演会は、小売業という異業種から学ぶ大変貴重な機会でした。事後アンケートでは、参加者全員が講演に満足しています。意見の中でも、生産空間に寄り添う思想やそれを実現するための物流網のあり方は、北海道における生産空間の維持に必要なだという新たな気づきを得た参加者もいました。

人口減少や少子高齢化の進展により、将来の地域の衰退は他人事ではなくなってきていますが、セコマの講演から、地域の弱点や課題を長所に活かす逆転の発想の重要性を認識することができました。

今後、地域活性化に向け、専門分野に囚われず、多面的な視点で課題解決策を検討するとともに、他分野の技術士との交流により柔軟な発想を養う場として、青枝交を積極的に活用していきます。



写真-1 セコマ 佐々木様による講演会の様子



写真-2 グループワークで意見交換を行う様子